

## お知らせとお願い

### 研究課題「ロクロニウムの薬力学モデルの構築」

防衛医科大学校麻酔学講座では、「ロクロニウムの薬力学モデルの構築」を行う研究を計画しました。

ロクロニウムは、全身麻酔で広く一般に使用されている筋弛緩薬です。筋弛緩薬は麻酔や手術を安全に受けて頂くために使われます。全身麻酔中の筋弛緩薬の投与量は、経験的に投与されることが多いです。また、必要に応じて筋弛緩モニタリングが行われることがありますが、正確なモニタリングを麻酔の最初から最後まで行うことが難しい場合もあります。

そこで、筋弛緩モニタの代わりとして、筋弛緩薬の投与条件から計算された筋弛緩薬予測濃度を利用する方法が考えられます。全身麻酔薬のプロポフォールは、20年以上前から使われていて、今では世界中の臨床麻酔で利用されています。

筋弛緩薬が作用する部位（効果部位）での予測濃度の計算には、薬物動態モデルと薬力学モデルが必要になります。複数の薬物動態モデルがこれまでの研究で構築されていますが、これらの薬物動態モデルに適した薬力学モデルは構築されていません。既に発表されている薬物動態モデルに適合する薬力学モデルを構築すれば、ロクロニウム効果部位濃度を計算できるようになり、臨床麻酔での筋弛緩薬投与量調節に利用できるようになり、麻酔の安全性の向上に貢献できます。

本研究は、2010年4月から2014年8月の間に防衛医科大学校麻酔学講座で行った「筋弛緩薬の作用発現時間を短縮する因子についての研究」にご協力いただいた方から集めさせて頂いた情報を利用して行う後方視的研究です。追加で収集する情報はなく、患者さんに直接本調査へのご協力をお願いすることはありません。

研究結果は、後日、専門の学会や学術雑誌に発表する予定ですが、患者さん個人が特定される情報を発表する可能性はありません。本研究の対象となる方でご自身の全身麻酔中の情報を本研究で使われたくないというご希望のある方は、お手数ですが下記連絡先までご連絡をいただけますようお願い申し上げます。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、ご自身が防衛医科大学校病院で診療を受けることには全く影響がなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

本研究は、今後の臨床麻酔の安全性を高めるために行います。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

連絡先：防衛医科大学校病院麻酔科

増井 健一

Tel: 04-2995-1211 (内線 2339)